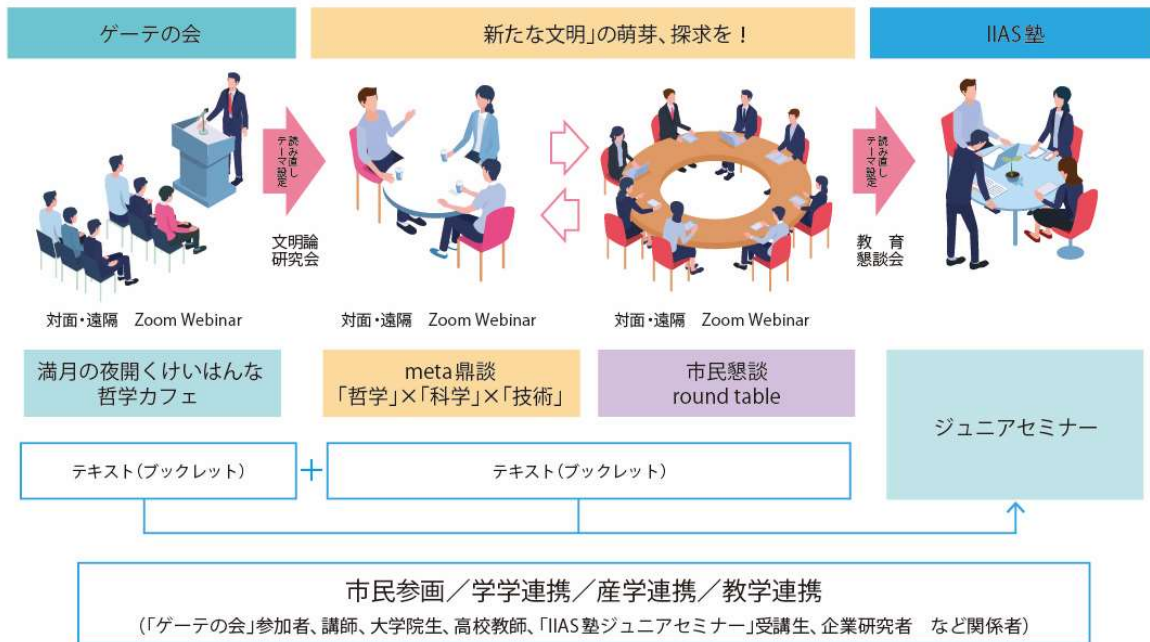


満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」 『新たな文明』の萌芽、探求を！』プロジェクト

【共通テーマ】

近代合理主義を超えて、その自然観、人間観、死生観を問い直す。
近代化の光と影を追い、未来を照射する。



構成

1 満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」

2013年8月以来、基本的に毎月開催。2021年度末で90回の開催となる。2019年度からの基本テーマは「新しい文明の萌芽を探る一日本と世界の歴史の転換点で、転換機を動かした先覚者の事跡をたどる」2022年度以降、引き続き「新たな文明』の萌芽、探求を！」をテーマに開催

2 けいはんなmeta鼎談(哲学×科学×技術)

「哲学」「科学」「技術」の各分野の学識者によるクロス討議(鼎談)を通じて、それに先立って開催される「ゲートの会」のテーマについて、多角的に、かつ深く掘り下げて、その課題を明らかにするとともに、次代を拓く「新たな世界観」を獲得する端緒が開かれることを期待

3 けいはんな市民懇談(round table)

「ゲートの会」の講演及び「けいはんなmeta鼎談」の視聴者を中心に、市民と専門家、教師、次代を担う学徒など多様な人々の参加を得て、当該主テーマについて学び合う場を設えることとし、それを通じて、当該主テーマに関し、市民が広くリテラシーを身に付ける切っ掛けとなり、地域文化力の向上に資することを期待

4 IIAS塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラム

2016年以来、リベラルアーツを旨として、春季、夏季の年2回開催。2019年までは対面方式(2泊3日)で、2021年は遠隔方式(2日)で開催。これまで近畿府県の高校生を中心に200名を超える卒塾生を輩出。現在、「三菱みらい育成財団」の支援も得て新たな方式(ハイブリッド方式)での実施を模索中

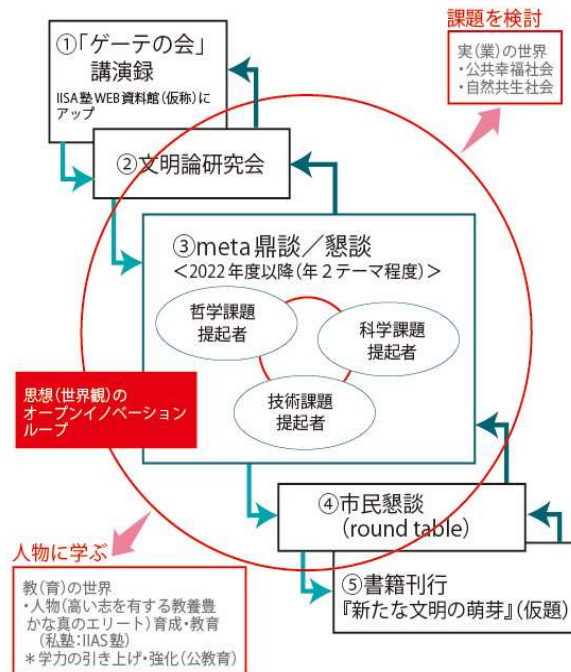
取組の背景・趣旨

- ▶1972年『成長の限界―人類の危機レポート』(ローマクラブ)の衝撃から50年。当時、京都大学総長であった奥田東氏が、「東西文明の融合による新たな地球文明の創出」を唱え、その拠点として「関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)」の建設を構想したのは、その衝撃を受けてのことであった。
- ▶世界は、この危機にどう立ち向かったのか。「成長の限界」を超え、人類はかつてなく「繁栄」し、そして危機は突破されたかに見えた。だが、そこに出現したのは、圧倒的な格差社会。地球規模の巨大自然災害に次々と襲われる社会、気候危機に陥った世界だ。危機は一層深刻さを増した。
- ▶ところで、「けいはんな学研都市」には、近代のその先を照らし出す光がある。その光源は、2013年以来10年近くわたって開催されている「満月の夜開く哲学カフェ」「ゲートの会」だ。また、その光を掲げて次代を拓こうとする若者たちの集いもある。卒業生200名を超える「IIAS塾」エリート“独立自尊の志”養成プログラムだ。
- ▶けいはんな学研都市は、次代を拓く「新たな文明」の萌芽探求の好適地である。その探求に向けて、『「新たな文明」の萌芽、探求を!』プロジェクトを起こし、「哲学」×「科学」×「技術」のmeta鼎談を、また「市民懇談(roundtable)」を新たに開催することとしたい。
- ▶そして、『「新たな文明」の萌芽、探求を!』の合言葉の下に、市民と研究者と企業と行政との連携による協働態を、この「けいはんな学研都市」において形成していこうと思う。

けいはんな学研都市の建設の起源



プロジェクトの骨格



産、官、学の連携のもと、研究成果を社会に問いかける。



私たち人類は今、様々な要因で持続的生存が脅かされる諸課題に直面しています。将来の世代の人たちは、今まで通りの生き方、価値観で、この地球上に生存し続けられているのでしょうか。国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために、何を研究すべきかを研究する」ことを基本理念に、地球社会が直面する困難にどのように対処するのか、そして21世紀にあるべき文化・科学・技術はどのような姿なのか、これらの諸課題に対する根源的な研究を行っています。

